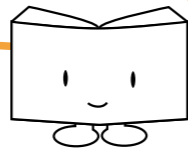


つやまっ子に贈る100冊の本



つやまっ子読書プランキャラクター「ぶっくちゃん」

自然の遊びから「本の世界」へつなぐ本



推薦者

芦田美喜子さん(国分寺)

子どものころ、家の周りには自然があふれていて、わたしたち女の子は草花でままごとをして遊んでいました。その草花に集まっている昆虫に興味を持ち、手に取ったのが『ファール昆虫記』でした。フンコロガシなど、周りにはいない昆虫も紹介されていて感動したことを覚えています。

この本は、昆虫を生態観察したものです。理科の時間などに山や川に遊びに行き、そこで見つけた昆虫を教室に帰って図鑑や『ファール昆虫記』で調べたりしたものです。今は児童館で子どものお世話をしています

が、児童館で遊んでいる子どもたちも昆虫をよく捕まえて見せに来てくれます。チョウチョはそっと優しく手に包み、ダンゴムシは手のひらでコロコロ転がしながら…。そんな時、子どもたちと『ファール昆虫記』と一緒に開いて「どんな虫だろう？」と調べています。子どもたちが遊びの中で、本に親しむようになってくれればいいですね。

そういった点で『ファール昆虫記』は、子どもたちを自然の遊びの中から「本の世界」へつないでくれる、すばらしい本です。



「ファール昆虫記」

津山市にはどんな子育て支援がありますか

おたより

津山市では、どんな子育て支援サービスが行われていますか？教えてください。(小田中・男性)

子ども課では子育てに対する支援などをまとめた「子育てマップ」を作成し、配布しています。

「子育てマップ」には、子どもが病気になったときのことや育児に関する悩み、子どもの言葉や心の育ちの悩みについての相談窓口、各種手当

のこと、保育所(園)・幼稚園などを紹介しています。また、放課後の留守家庭のための放課後児童クラブや一時保育・休日保育を行っている保育所(園)、未就園児と保護者を対象とした親子ひろば「すくすく」、各親子クラブ、児童館、育児の相互援助活動を行っている「津山ファミリー・サポート・センター」などの概要も紹介しています。子育て支援を行っている施設などは「子育てマップ」裏面の地図上で位置を示しており、併せて各施設におむつ交換所や授乳室、乳幼児いす付トイレの有無も紹介しているので大変便利です。「子育てマップ」を活用して、楽しく子育てしてください。



問い合わせ先 子ども課(津山すこやか・こどもセンター) 1(画)32・2065

きらめく津山人

いつまでも歌い続けたい

男性コーラスグループ「男・デイズ」団長



赤松 圭介さん(小原)

昨年、国民文化祭・しずおか「合唱の祭典」に県代表として出場した男性コーラスグループ「男・デイズ」。最高齢87歳で団長を務める赤松さんにお話を伺いました。

国民文化祭はどうでしたか？

実は1カ月前に急ぎよ、発表曲を変更することになったのです。わずかな期間しかありませんでしたが、メンバー全員が一生懸命練習し、心を一つにして発表することができました。無事歌い終え、会場の鳴り止まぬ拍手を受けた時は感無量でした。意気揚々と津山へ帰って

ることができました。

どんな曲ですか？
「吉井川」「いざ起て戦人よ」「サライ」の3曲です。「吉井川」は鏡野町出身の作曲家・山本寛之さんが古い津山の町並みをイメージして作った歌です。歌詞を書いた横断幕を掲げ、会場の皆さんと一緒に歌い「来年の国民文化祭は吉井川のある岡山県ですよ」とPRもしました。

コーラスとの出会いは？
わたしの青春期には戦争がありました。死んで当然の戦争に行って、生きて帰って来ることができました。この「生かされた」という体験が、わたしに「常に希望を持ち前向きに生きよう」という気持ちを与えてくれました。75歳で社長を退いた時、何もせずただ時間を過ごすのではなく、何かを始めたいと思ったのです。当時、生涯学習講座に「お父さんたちの楽しいコーラス『男・デイズ』」が

あるのを知り、以前から歌うことが好きだったのでメンバーに加わりました。
現在、発足から10年を経過し、メンバーは23人、平均年齢は73歳になりました。練習は週1回2時間、2人の先生の指導の下で童謡や唱歌、歌謡曲などバラエティーに富んだ歌を楽しんでいます。



▲国民文化祭・しずおか「合唱の祭典」に出演

継続の秘訣は？

歌うことが好きなこと、そしてメンバーの仲がいいことです。また、先生が年々難易度を上げて飽きないように配慮してくれています。今では四部合唱に挑戦するまでになりました。それから、何より家族の後押しがあることですね。

これまでの人生経験から「生かされているなあ」「人に支えてもらってきたから今の自分があるなあ」とつくづく思え、感謝の気持ちでいっぱいになります。

コーラスの魅力は？
全員で歌い、一つの曲を完成させるところです。大勢の聴衆の前でハーモニーを響かせ、拍手を受けるとなんともいえない達成感に包まれます。歌っている時は、悩みがあっても頭が真っ白になり、歌だけに集中できます。それは同時にストレス解消にもつながりますね。

「人生はロウソクのように」といわれます。与えられた命の炎を大切に、健康管理に気を付け、声の出る間はみんなと一緒に歌い続けたいですね。

「男・デイズ」は老人福祉施設などへ慰問にも行っています。慰問先ではみんなと一緒に歌い、楽しいひとときを過ご

高年齢になっても、生きがいを持って前向きに人生を楽しみ、そして感謝の気持ちを忘れない赤松さん。いつまでも元気に歌声を響かせてください。